

研究主題

# 主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業の創造

～新しい教育を学ぶ「情報教育・教科教育・グローバル教育」を通して～

グローバル教育部研究テーマ

児童が、持続可能な社会の創り手として 自らの行動を変えていくための  
カリキュラムマネジメント・授業づくり

## 第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和2年12月16日(水)  
第5校時 13:15～14:00  
対 象 第4学年3組 28名  
学校名 羽村市立武蔵野小学校  
授業者 教諭 北村 江未  
会 場 3階 家庭科室

1 単元名 「20才の私たちへのメッセージ」

2 「総合的な学習の時間」の目標

- ・各教科と双方向性を持ち、探究的な学習をすすめることで生きて働く知識・技能を身に付けることができるようにする。
- ・探究的な学習過程を設定し、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質・能力を育成する。
- ・問題の解決や探究的活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

3 単元の目標及び評価規準・内容のまとめごとの評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	地球規模の環境課題にかかわる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識および技能を身に付けているとともに、既習事項や生活経験をもとに地球の環境課題の現状と人々の生活の仕方との間に因果関係があること・環境課題同士が関連し合っていることに気付き、人々が協力し合って課題解決のために行動を変えることの大切さを理解している。	日常生活での気付きや他教科での既習事項および調べたことをもとに、持続可能な社会の実現に向けて解決したい身近な場面での課題を設定し、協働的な学習を通して批判的・多面的・統合的に解決策を吟味したり、考えたことをまとめ・表現したりする力を身に付けている。	地球規模で起きている環境問題についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、持続可能な社会を実現するために、将来の自分のありたい姿を想像し、自らの行動を変容させたり社会に参画しようとしたりしている。

具体的な評価規準			
探究課題	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
SDGsの視点から捉えた地球の環境課題と、それらの解決に向けた自分たちの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項や生活経験・調べたことをもとに、地球には様々な環境課題があることに気付いている。 <b>(多様性)</b></li> <li>自分たちの生活が環境課題とどのようにつながるのかという視点に立ち、試行錯誤しながら課題を解決する方法を見いだしている。 <b>(相互性)</b></li> <li>自分の考えや行動を変容させることで、未来の社会が持続可能になると気付いている。 <b>(有限性)</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>課題設定の場面</b>において、環境課題を解決するために、身近な場面では自分たちに何ができるのかを考え、課題を見いだしている。</li> <li><b>情報の収集の場面</b>において、よりよい解決方法を提案するために必要な情報を、手段を選択して収集している。</li> <li><b>整理・分析の場面</b>において、友達と協力して比較・検討することで、課題達成に向けて情報を精選したり手立てを見直したりしている。</li> <li><b>まとめの場面</b>において、相手や目的に応じてわかりやすくまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分と違う考えや意見を尊重し、自分の考えを調整しようとしている。 <b>(自己理解・他者理解)</b></li> <li>SDGsの視点から課題について考える学習に興味・関心をもち、自分たちにできることを考える活動に主体的・協働的に取り組もうとしている。 <b>(主体性・協働性)</b></li> <li>環境問題への解決策を考える取り組みの中で、自分の良さや可能性に気づき、自己の生き方や未来の社会の在り方について考えようとしている。 <b>(将来展望・社会参画)</b></li> </ul>

#### 4 指導観

##### (1) 単元観

本単元は、学習指導要領「総合的な学習の時間」第2章第2節1(2)を受け、設定した。本単元は、昨年度までの第4学年「私たちの水はどこから」の単元をもとに、他校との交流や体験的な活動、研究者からの直接の情報収集等を組み入れ、単元を再構成した。SDGsを切り口に、環境課題を「自分ごと」として捉え、解決の過程を経ることで持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を身に付けるようにすることをねらいとしている。

第一次においては、「10年後の地球」について想像することを入りに、SDGsの17項目と出会う。SDGsについてもっと調べたいと考えた児童は、SDGsの項目を1つ選び、その目標に関連する環境課題について本やインターネットで調べ、新聞を作成する。友達と作成した新聞を紹介し合い、共通点や相違点を見出す活動を通し、「自分たちの生活の仕方が、環境課題を引き起こしているのではないか」という仮説を立てる。

第二次では、児童の自分たちが日頃から使用している「水」を切り口に、「にごった海水」「にごった川の水」「透き通った水道水」等を見比べる活動を通し、「わたしたちの水は、どこから来ているのか」という疑問をもつようにする。そこで、社会科の浄水場見学や、海洋汚染について研究しているゲストティーチャーによる出前授業を設定する。浄水場の仕組みを学び、海の博士から、水の循環について、マイクロプラスチックについての情報を得た児童は、水は海につながっているからこそ、人間のこれまでの生活様式が原因で、海洋汚染が起きていることに気づき、自分が探究・解決したい課題を設定する。

第三次では、海洋問題を入りに、SDGsに関連する様々な環境課題を解決するために、自分たちの行動を変えるための具体的な解決策を考える。一人ひとりが考えた解決策をもとに、「未来の自然を守るため」の作戦を立案する。作戦を交流させ合う際、思考ツールを用いて作戦を分類する活動を組み入れ、「作戦同士がつながっている」「どの作戦も海を守ることにつながっている」「どの作戦も必要な作戦である」気づきを引き出すことで、作戦実施の必要性を実感することができるようにする。

第四次では、第三次で考えた作戦を実践するにあたり、社会科で学習した八丈町立三根小学校の4年生に向けたプレゼンテーションづくりに取り組む。発表の前に、実際に作戦を試してみる活動を通し、児童の

「自分たちも、三根小の児童も実践するために、誰にでもできるように考えを見直したい」という思いを引き出す。発表を経てフィードバックをした後に、次年度へ向けて取り組みたいことを考えるとともに、学習全体の振り返りを行うことで、自分の良さや可能性に気づき、今後の自己の生き方や未来の社会の在り方について考えることができるようにする。

このように、第一次から第四次の探究の過程を経て、児童に相手意識をもたせる手立て・実体験を伴う活動を仕掛け、必要感をもつようにする。このことから、児童が SDGs に関する課題を自分ごととして捉え、自分の行動を変えていくことができるようになる。

## (2) 児童観

本学級の児童は、どの教科の学習に対しても素直に・真剣に取り組み、自分の考えを発表したり、活発に話し合ったりしている。特に持続可能な開発や国際理解に関する課題について考えた際は、児童は、自ら疑問に思ったことについて調べたり、自分の意見を伝え合ったりする姿が見られる。一方、課題を自ら立案することに対する関心は低く、自分の考えの修正点を見付け、より良いものにしていくことや、考えたことを実践し、吟味するプロセスにおいても苦手意識をもっている児童が多い。根底には、間違いを恐れたり、見通しがもてない場面で不安になったりする児童の実態がある。

そこで、本単元においては、八丈町立三根小学校との交流を設定し、児童が必要感をもって課題を設定することができるようにする。また、持続可能な社会の構築のための作戦づくりを行い、実践することで、「絶対解のない」課題に対し、児童が自由に想像を膨らまし、豊かな予想や発想をする姿を引き出す。そして、ESD レンズ「批判的レンズ（見直すレンズ）」を通して、自分の意見と友達の意見との比較・検討をする場面を設定することで、児童が自分の意見を振り返り、考えを繰り返し構築し直したり、友達の考えを受け止めたりする経験を積むようにする。また、「統合的レンズ（つなげるレンズ）」を通して、互いの考えの共通点や相違点をさぐりながら、考えと考えとのつながりを考える場を設定し、自己の考えの変革をねらう。

本単元および他教科等における ESD を通して、自分たちの未来を予測し計画を立てる力を身に付け、持続可能な社会の創り手としての自己の生き方を考えることができるようにしていく。

## 6 単元指導計画（全15時間）

		実施日	学習活動	関連する教科・学習	具体的な評価規準
第一次 課題設定	1	7/17（金）	○SDGs って何だろう ・ SDGs について知る。 ・ 17 項目についての内容を学び、身近に関係していることを捉える。	音楽科 ・ 世界と音楽でつながることができる。	
	2	7/29（水）	○自分でできる SDGs を考えてみよう ・ 17 項目の目標から、身近な生活の中で持続的に取り組めることを考える。		○自分たちの生活の仕方と、環境問題が関連していることに気付いている。  【思・判・表】

3	9/8 (火)	<p>○みんなの地球について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の地球の危機について知り、気付いたことを出し合う。</li> <li>・海について自分なりのイメージを膨らませる。 (手立て：地球規模の問題の映像)</li> <li>・出前授業での質問内容を考える。</li> </ul>	<p>国語科 ○SDGs 新聞を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事実に基づき、分かりやすく書くことができる。</li> </ul>	<p>○他の環境問題や海洋問題が、自分たちの生活にも深く関係していることを理解し、探究的に調べたり、目的に応じて考えたりしている。 <b>【知・技】</b></p>
4  (つかむ)	9/15 (火)	<p>○みんなの知っている海について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球上での海洋に対する考えを広げる。(不思議だと思ったこと、現状の様子等の課題、海水を見て感じたこと、気付いたこと)</li> <li>・自分が使用している水について考える。 (手立て：実物の海水、水比べ、SDGs カード)</li> </ul>		<p>○身近な人から聞き、日常生活から課題を見付けることで、環境問題に興味をもち、解決に向けて、他教科の学びを関連付けながら見いだそうとしている。 <b>【主】</b></p>
社会科	<p>9/17 (木) 出前授業 社会科 ○水はどこから (出前授業「海と空について」から学ぼう 水の出発とゴール) 講師名 海洋研究開発機構アプリケーションラボ研究員 森岡 優志先生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水の出発とゴールについて理解し、海洋についての学びを広げる。 <b>【知・理】</b></li> <li>・水のゆくえについて振り返り、海洋問題は、自分たちの生活と結び付いていることを理解する。 <b>【知・理】</b></li> </ul>			
5	9/25 (金)	<p>○みんなの地球について、地球のためにどんなことができるか考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前授業の振り返りを行い、海洋への興味関心を高める。</li> <li>・出前授業から気付いた地球規模の問題について、自らの課題を設定する。</li> </ul>	<p>社会科 ○東京都の南にある島、八丈島について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都の海が身近にある八丈島に興味をもつことができる。</li> </ul>	<p>○海洋問題が他の環境問題や自分たちの生活にも深く関係していることを理解し、課題を立案している。 <b>【知・技】</b></p>
6	10/6 (火)	<p>○実際に地球のために、自分たちにどんなことができるか考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分事として、問題解決をするためにどんなことから取り組めるのか考える。</li> <li>・SDGs の項目を想起しながら、どんな目標を達成できるのかイメージする。 (手立て：SDGs カード)</li> <li>・SDGs に関して考え直し、海洋問題が海だけの問題なのか考える。</li> </ul>	<p>社会科 ○八丈島について調べてみよう</p>	<p>○海洋問題と、多様な環境問題が関連しあっていることに気づき、自分たちの生活との関連について理解を深めている。 <b>【知・技】</b></p>

	7	10/13 (火)	<p>○実際の地球ためにできる工夫を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の考えを聞き、グループを見付ける。</li> <li>・グループごとに考えを話し合うことができる。</li> </ul>		
<p>10/19 (月) ~11/17 (火)</p> <p>社会科</p> <p>○三根小学校の4年生と、お互いの考えを伝えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八丈町立三根小学校4年生へ、自分たちの作戦を紹介することを知り、身の回りの問題を解決するための作戦づくりの学習に興味・関心をもつ。 <b>【主】</b></li> </ul> <p>○玉川上水について調べてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・玉川上水は、江戸（東京）の水源になったことを知る。 <b>【知・理】</b></li> </ul> <p>○玉川上水について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土資料館および羽村取水堰見学・振り返りを行い、きれいな上水をつなげたり守ったりしようとした先人の知恵を学び、水の大切さについて考える。 <b>【思・判・表】</b></li> </ul>					
	8	11/24 (火)	<p>○出前授業</p> <p>「海洋プラスチックについて」</p> <p>講師：九州大学 応用力学研究所 磯辺 篤彦先生</p>		<p>○海洋問題を自分事として捉えている</p> <p><b>【知・技】</b></p>
<p>社会科 八丈島との交流会</p> <p>○羽村市の紹介をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住んでいる町の良さを紹介する。</li> </ul>					
第三次整理・分析	9	11/30 (月)	<p>○自分たちも自然問題を解決するための方法を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然問題のため、続けられる問題解決の方法や工夫を考える。</li> </ul>		<p>○自分たちの生活の仕方から、何が問題かを見いだしたり、多様な解決策を考えたりして、解題解決に向けての計画を立てる。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p>
	10	12/10 (木)	<p>○未来のために本当にできる方法を見付けよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターを見合わせ、同じ考えの友達を見付け、カテゴリーずつに分かれ、ポスター（タブレット）にまとめ直す。</li> </ul>		<p>○他者との交流を通して、考えを付け足したり、変更したりしながら、新たな気づきを生み出すための試行錯誤をしている。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p>
	11	12/16 (水)	<p>○身の回りにある問題を解決する作戦は、海を守ることとどんな関係があるのか考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンセプトマップを活用し、海洋問題と作戦との関係を考え、自分たちの作戦が海洋問題の解決にもつながっていることに気付く。</li> </ul>		<p>◎海洋問題の解決に、自分たちの考えた作戦が関係していることを捉えたり、大切な海を守ることだと気付いたりすることができる。</p> <p>(発言・ワークシート)</p> <p><b>【思・判・表】</b></p>
	12	1/18 (月)	<p>○八丈島の4年生と交流準備をしよう（発表会準備）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの未来の自然を守るために考えた方法を伝える練習をする。</li> </ul>		<p>○相手意識をもち、ポスターや伝え方に工夫を繰り返し、取り組んでいる。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p>

第四次 まとめ・表現	13	1/21 (木)	○発表のリハーサルをしよう ・八丈島の4年生に伝えるように、相手意識をもって取り組む。	○相手意識をもち、伝えるような工夫を繰り返し、取り組んでいる。 【思・判・表】
	14	1/25 (月)	○八丈島の4年生と未来の自然のための交流会をしよう ・未来に向かって持続可能な取り組みを伝え合い、未来の自然のためについて、意見交流をする。	○未来の地球について学習してきた取り組みを、相手意識をもち伝えようとしている。 【思・判・表】
	15	1/29 (金)	○自分たちは、「20才までの未来に向けて」続けていける方法か振り返ろう ・これまでの学習を振り返り、20才に向けて自分たちが考えた取り組みが、実践していかなければいけないことに気付き、これからの生活に生かそうと考える。	○学習内容を振り返り、今後の学習や生活に生かす方法を考えている。 【思・判・表】

## 7 指導に当たって

### 手立てA 単元構成の工夫（カリキュラムマネジメント）

海から離れた羽村市に住む子供たちは、現在海洋で起きている問題に対するイメージが乏しく、課題を設定することや、自分の考えを広げたり深めたりすることが難しい。よって、本単元を通して、児童が現在海洋に起きている問題について興味・関心をもち、SDGsの17の目標と関連付けて多様な視点から解決策を考え、必要感をもって自ら課題解決に向かおうとするために、単元構成を工夫した。

まず、子供たちの身近にある水に関する学習を主軸とし、教科横断的に学習を進めるため、ESDカレンダーの作成を通してカリキュラムマネジメントを図った。

#### ①国語科「新聞づくり」において、目的意識をもって調べ学習をする姿を引き出す。

「ランドセルは海を越えて」を読ませた後に、SDGsに関する新聞づくりを設定し、児童は、自分の言葉で新聞にまとめるために、自らSDGsの17の目標やそれらに関連する環境課題について調べる姿を引き出した。その上で、環境課題を「自分ごと」として身近に捉えさせるために、

#### ②理科「自然の中の水の姿」において、実物の比較を通した子供の問いを引き出す。

「自然の中の水の姿」では、海水と羽村の水道水を見比べたり、ステップチャートを用いて水の循環について考えたりさせ、地球上のすべての水が海から循環していることに気付かせた。

③社会科「とどげよう命の水」・「ゆたかな自然を守り生かす八丈島」において、実体験や他校との交流を通した、環境課題を解決することへの必要感を引き出す。

「とどげよう命の水」では、玉川上水取水堰付近や羽村市郷土資料館の見学を通して、上水を江戸の街へつなげ、水質を管理して江戸の人々の暮らしを守った先人の知恵や努力について考えを深めさせた。また、「ゆたかな自然を守り生かす八丈島」では、本土と八丈島との比較からの情報収集を通して、同じ東京都内に、自然環境を生かして暮らす地域があることを知り、そこに暮らす人々の思いについて考えるようにし、八丈町立三根小学校との交流を計画した。

これら他教科での学びを生かし、児童が広い視野から考えて課題を設定したり、必要感をもって自ら課題解決に向かうようにしたりするために、本単元においては、以下の手立てを講じた。

#### ①現在海洋で起きている問題に対する視野を広げるための出前授業

「自然の中の水の姿」で「自分たちの考えが本当に正しいか」を調べたいという児童の思いから、第2次にお

いて「水の循環について」「マイクロプラスチック」について出前授業を設定する。ゲストティーチャーとの対話を通して児童は情報を収集し、水が循環しているからこそ、人間生活の結果海洋汚染の問題が起きていることに気付く。

## ②海が身近にある八丈島の小学生との交流活動

第4次において八丈島に生きる4年生児童と、海洋問題の解決策について交流する学習活動を設定した。ここでは、自分たちが考えた「海を守るための作戦」を八丈島の4年生へ紹介したいという児童の思いを引き出し、そのために「わかりやすくまとめたい」「本当に作戦をやってもらって、感想を伝えてほしい」という相手意識・目的意識をもたせるようにする。また、解決策が「実践可能か、持続可能性があるか、効果的であるか」という点からフィードバックを得るようにする。自分の作戦を考え直した児童は、「次は、他の学年や学校、地域に広げていきたい」「まず自分たちが行動したい」という思いをもつようになると考える。

このように、外部の資源と児童とを結び付け、他教科との関連をふまえた本単元の展開をすることで、児童が、環境課題を自分事として捉え、解決に向けて行動するという、「持続可能な社会の創りに必要な資質・能力」を身に付けることができると考えた。

本時では、これまでの身近な自分たちの生活の中の問題を捉える学習や他教科での学習を踏まえ、特に海の博士による出前授業で学んだことを振り返る場を設定した。これまでの記録を蓄積したポートフォリオを見返す場面を設け、ゲストティーチャーからのメッセージを振り返ったり、海洋汚染が起きている現場の写真を見たりして既習事項を想起するようにする。「海の問題を解決するために、羽村にすむ自分たちにできることは限られているのではないだろうか。」という発問をきっかけに、児童に「今まで、身の回りの自然を守るための作戦を考えてきたが、陸と海とはつながっているから、自分たちの作戦も海の問題の解決につながっているのではないか。」「自分たちの作戦だけでは、すべての海の問題を解決することができないのではないか。」という思いを引き出すようにする。このことで、人々が協力して行動を変えていくことの大切さに気付き、自分たちの作戦の意味を吟味する姿につながっていくのではないかと考えた。

## 手立て B ESD レンズを通して見る学習活動の意図的な設定

児童は日常生活の中で、ごみの分別・減量や、給食を残さず食べることの大切さについては意識している。しかし、それらの行動が大切である理由について想起する経験が乏しく、「言われたからやっている」「なんとなく大切だと思うから」という考えのもと行動している姿が見られる。そのため、本単元において環境課題について話し合う際に、断片的な知識・狭い視野から考えてしまい、短絡的に解決策を見出してしまうたり、他人ごとの立場に立って考えたりすることが予想される。このような実態の児童が、多様な視点から根拠をもって解決策を考えたり、何度も作戦を振り返ったりと試行錯誤するためには、その拠り所となる「見方・捉え方」を獲得したり活用したりすることができるようにする必要があると考える。

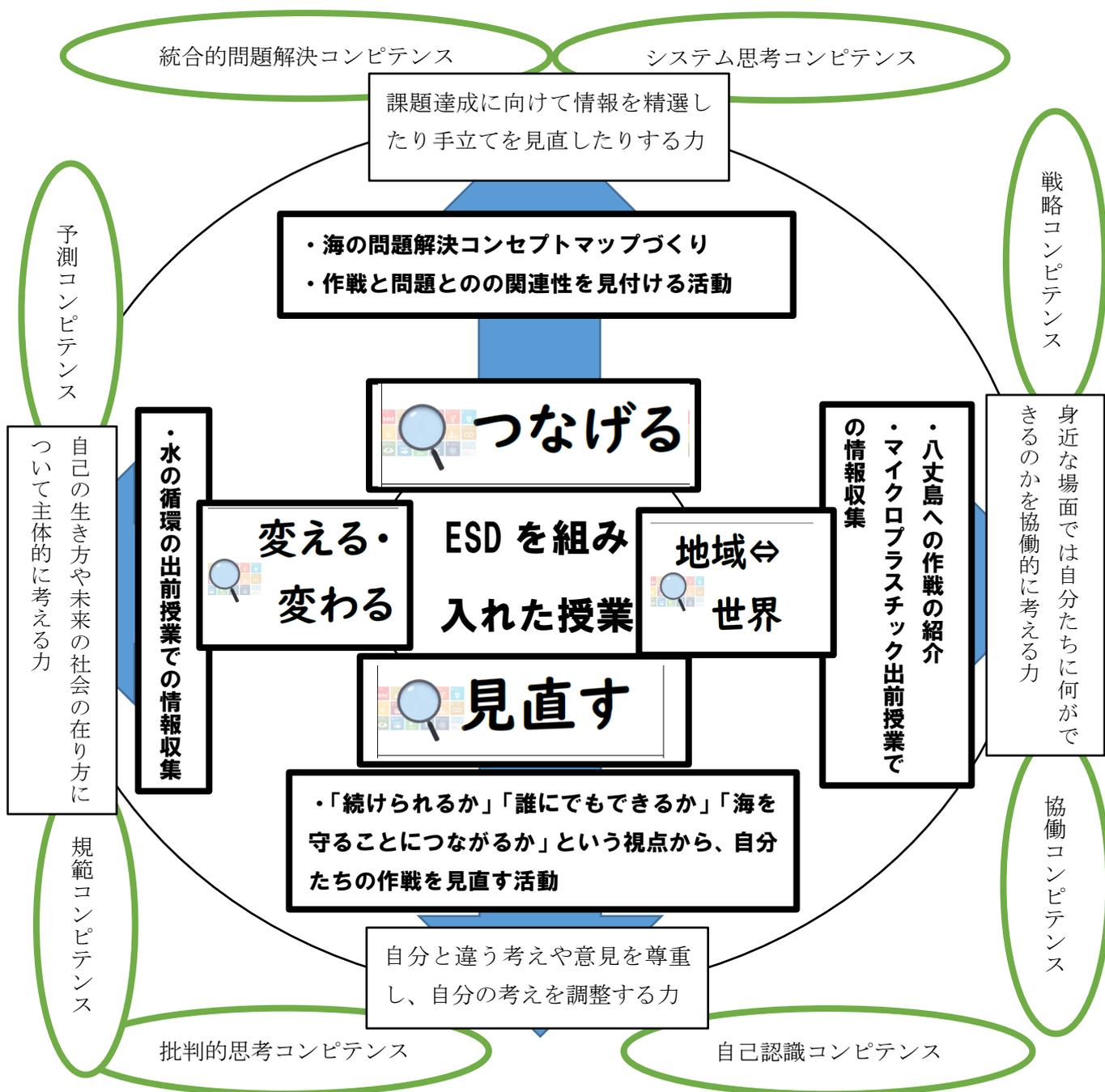
そこで、学習過程について、ESD レンズを獲得したり働かせたりする場を設定する。児童が自分の考えを「繋げる・見直す」過程を価値付け、その後も同様の見方を活用することができるようにする。

前時や本時では、一人一人の作戦が互いに関係し合っている事や、どの作戦も海洋問題と関連し、解決に欠かせないものであること、また、海洋問題を解決するには1つだけでなく、様々な行動が必要であることに気付かせたい。そのために、本時では、「統合的レンズ（つなげるレンズ）」を働かせて対話をする活動を組み入れる。思考ツール（コンセプトマップ）を用いて、海洋問題に関連付いていることに気付き、自分の作戦や友達の作戦が、自分たちの理想とする10年後の海の姿にどのようにつながるのかをコンセプトマップに示すことで、海洋問題の原因を解決するための作戦とのつながりを可視化したり、作戦同士の関連やつながりがあることにも気付いたりすることで、多様な解決策が必要である大切さを実感できるようにする。

本単元と他教科等との関連(ESD カレンダー)

教科	6月	8月	11月	12月	1月
総合	水の循環について考えよう→出前「海と空について」→ 地球のためにできること→身の回りの問題に対してできること →出前「海洋プラスチック問題」 →海洋問題に対してできること →八丈島に伝えよう				
社会	東京都の地形の様子 → ゆたかな自然を守り生かす八丈島 → とどけよう命の水 → 健康なくらしとまちづくり (玉川兄弟と玉川上水の開発) → 昔から今へ				
理科	天気と気温 → 雨水のゆくえと地面のようす → 自然の中の水のすがた				
国語	事実に基づいて書かれた本を読もう → 新聞を作ろう (SDGs 新聞) (ランドセルは海をこえて)				
音楽	音楽で心の輪を広げよう (SDGs の観点からの歌詞理解) → ちいぎに伝わる音楽に親しもう (八丈太鼓)				

本部会が考える、本単元における ESD と総合的な学習の時間との相関図



 つなげる	 地域⇔ 世界	 見直す	 変える・ 変わる
統合的レンズ	文脈的レンズ	批判的レンズ	変容的レンズ

参考 「未来の授業 私たちのSDGs探究BOOK」(宣伝会議) P116

## 8 本時(全15時間中の第12時)

### (1) 本時の目標

自分たちが考えた「身の回りにある問題を解決する作戦」が、海の問題解決にもつながるかを考える過程で、自分の考えを友達に伝えたり、見直したりすることができる。(思・判・表)

### (2) 本時の展開

時間	○学習活動	◆指導上の留意点	◎評価規準(評価方法)
導入 10分	<p>○前時の振り返りをする</p> <p>T:今日は、何の問題について考えたいですか。</p> <p>C:海です。</p> <p>T:海について考えましょう。</p> <p>T:これまでいろいろ海について、勉強してきました。海にはどんな問題がありましたか。</p> <p>C:マイクロプラスチックがあります。</p> <p>T:マイクロプラスチックって、何が原因でできるのかな?</p> <p>C:ペットボトル。プラスチックごみ。</p> <p>T:どうして、海にペットボトルがあるの?</p> <p>C:海にごみが流れ着いたから。</p> <p>T:そういえば、このような写真を見ましたね。プラスチックごみの問題がありました。他には、どんなものがありましたか。</p> <p>C:あまり思いつかないな。</p> <p>T:たとえば、こんな写真がありましたね。</p> <p>C:シロクマが流されている!</p> <p>T:どうしてこんなことになったの?</p> <p>C:海があつたかくなっているから。</p> <p>T:温暖化の問題がありましたね。これらの問題に対して、みんなだったらどう向かっていく?</p> <p>C:自分たちの作戦を見直します!海に行ってゴミ拾いします。</p> <p>C:でも、「ゴミ捨て隊」の私たちの作戦が、マイクロプラスチックの問題につながりそうです。</p> <p>T:どうしてそう思ったの?</p> <p>C:ゴミ箱をたくさん設置して、みんなに分別してもらおう私たちの作戦をすると、リサイクルできて、ゴミが減ると思うからです。</p> <p>T:他のグループの作戦はどうだろうね。</p> <p>C:つながるかもしれない。</p> <p>T:じゃあ、今日は何を考えようか。</p>	<p>◆前時の最後に、これまでの学習内容を想起させることで、児童が、海の問題を考えたいという意欲を引き出す。</p> <p>◆既習事項について、個人で思い出し、グループで共有した後、全体に発表させることで、全員が想起することができるようにする。</p> <p>◆出前授業で講師から示された写真を提示したり、友達と話し合わせたりすることで、現在海洋ではどのような問題が起きているかを確認する。<b>手立てA</b></p>	
<b>自分たちの考えた作戦は、海の問題とつながっているか確かめてみよう。</b>			

<p>展開Ⅰ 10分</p>	<p>○見出した海での問題点に対し、自分たちが考えた作戦が海の問題とつながっているか、グループで話し合う。</p> <p>T：陸の問題と同じように、コンセプトマップにまとめましょう。</p> <p>T：自分たちの作戦が、どの海洋問題とつながるか、カードを並べてみよう。</p> <p>C：僕たちの作戦は、リサイクル作戦だから、ごみ問題を解決するのではないか。</p> <p>C：いや、リサイクルをすすめると、マイクロプラスチックがへって、魚がへるのを防ぐこともできるかもしれない。</p> <p>C：そうか。そうしたら、「魚がへっている問題」のところにも貼り付けよう。</p>	<p>◆中心に海洋問題を据え、同心円状にその原因と、その解決につながる「陸の作戦」を示したコンセプトマップを作るようにすることで、陸の作戦と海洋問題とのつながりに気付かせる。<b>手立てB</b></p>	<p>◎自分たちが考えた「身の回りにある問題を解決する作戦」が、海の問題解決にもつながるかを考える過程で、自分の考えを友達に伝えたり、見直したりしている。 (発言・ワークシート) <b>【思・判・表】</b></p>
<p>展開Ⅱ 15分</p>	<p>○完成したコンセプトマップを見ながら、自分たちの考えた作戦と海の問題とが<b>つながる理由</b>を学級で話し合う</p> <p>T：それでは、なぜそこに短冊を貼ったのか、理由を発表してください。</p> <p>C：私たち「ゴミ捨て隊」は、「ゴミが多い問題」につながると考えました。</p> <p>T：どうしてそう思ったのですか？</p> <p>C：分別をしてもらおうと、ゴミが海まで行かなくてすむからです。</p> <p>T：そう考えたのですね。他に、同じく「ゴミ捨て隊」を「ゴミが多い問題」につなげた人はいますか？</p> <p>C：ゴミ箱をふやすと、ゴミが減るので、私もそのようにつなげました。</p> <p>T：では、「ゴミ捨て隊」の作戦が、「ゴミが多い問題」以外とつながると考えた人はいますか？</p> <p>C：「マイクロプラスチックの問題」につながると思います。ゴミを正しく分別すると、プラスチックごみは海までいきません。</p>	<p>◆自分たちが考えた陸の作戦をコンセプトマップ上に示させることで、海の問題と自分たちの作戦とのつながりを見える化する。</p> <p>◆1つの海洋問題に対して、複数の付箋が重なった場面を取り上げ、自分たちの作戦だけではなく、他のグループのつくった作戦と海洋問題とのつながりにも気付かせる。</p>	
<p>まとめ 10分</p>	<p>○<b>本時の学習を振り返る。</b></p> <p>T：つくったマップを見て、気付くことはありますか。</p> <p>C：1つのグループで、2つの問題を解決することができそうです。</p> <p>C：陸で考えた時と同じように、全部の作戦がつながっていくかもしれない。</p> <p>C：陸のために考えた作戦は、海の問題にもつながっている。</p>	<p>◆コンセプトマップに貼った作戦の位置に注目させることで、全ての作戦が海の問題解決とつながっていること、作戦どうしの目的や内容が関連していることに気付かせる。<b>手立てB</b></p>	
<p><b>自分たちが考えた陸での作戦は、海の問題にもつながっている。</b></p>			
	<p>T：みんなが考えたことって、SDGsでいうと何番とつながりそうかな？</p> <p>C：14番、15番。あれ、17番にもつながるかも。</p> <p>T：みんなの作戦は、SDGsの目標にもつながっているんだね。</p>	<p>◆SDGsの目標と、児童の本時の学びとを結び付けることによって、児童が作戦を行うことに対して価値付けをする。</p>	